



【今週の暗唱聖句】 マタイ16:24

だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。いのちを救おうと思う者はそれを失い、わたしのためにいのちを失う者は、それを見いだすのです。

●私たちは「自分探し」「自己啓発」「自己実現」「自分磨き」の時代に生きています。一生懸命、自分のいのちの意味を求め、価値を高め、少しでも有意義な一生を送りたいと願って、本を読み、セミナーに参加し、仕事やボランティア活動にチャレンジしています。自分を尊く思えばこそ、人はこのような事柄に力を注ぐわけですから、この思い自体は大切なものです。投げやりな態度は神に喜ばれません。

●2000年前、裕福で若い役人は「永遠のいのちを受けるには何をしたらいいのでしょうか。」とイエスに問い掛けました。彼は自分の人生の質を高めようと善行に励み、道徳的にも非の打ち所のない生き方を心掛けていました。さらに死後の保証も欲しかったのでこの質問をイエスにぶつけたのです。御存知の通り、イエスはこの人に「財産全部」の要求を突きつけました。イエスは「自己追及の

果てに答えは無いよ」ということをこの人に仰りたかったのです。

●自分の命の本当の意味を見出したいなら、人は自分から目を離さなければなりません。自分探しではなく、神を探し求め、神に聞き従う必要があります。自己啓発ではなく、神と接する中で引き上げられて行く必要があります。自己実現、自分磨きでなく、神に不要な部分を削り取っていただき、磨かれて「神の作品」として仕上げさせていただく必要があるのです。

●しかしながら「自分から目を離すこと」は簡単なことではありません。なぜなら人は誰でも自分の「罪／自己中心」の性質と戦わなければならないからです。そのような意味で日々、意識的に自分を捨て、自分のために生きる生き方を否定し、毎日、イエスを見上げ、イエスについて行く決意を新たにしていく必要があるのです。

●人の命は神と人のために使つてこそ、「使-命」を果たすのです。

【今週の英語】 "Adrianism" Adrian Rogers より

Two words that will change your life:

"YES, LORD." 人生を変える二語：「はい。主よ。」



【聖霊について(2)】 「聖霊は、教え、導かれる家庭教師」

ヨハネ14:26 「聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、また、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い起こさせてくださいます。」

ヨハネ16:13 「真理の御霊が来ると、あなたがたをすべての真理に導き入れます。」

●前回、聖霊が私たちの心の内側に住まわれる方であることを学びました。それではその聖霊は私たちのために何をしてくださるのでしょうか。イエスが先ず最初に教えられたのは聖霊が、①全てのこと、②イエスが話された全てのこと、③全ての真理を、それぞれ、**①教え、②思い起こさせ、③導き入れる**、ということでした。これは正に「家庭教師」の務めです。

●旧約時代、預言者たちは聖霊に動かされて語り、その言葉が書き記されて聖書になりました。新約聖書に至っても同じです。聖書は神の靈感によるものであり、聖霊がその著者です。そして何とその著者が私たちの内に住んでくだ

さり、解説し、大事な所を思い出させ、どう適用するか、教えてくださるというのです。大好きな作家を自宅に招いている状況を思い描いて下さい！

●御言葉を愛し、真剣に学び、覚え、適用しようとする人は、聖霊に喜ばれる人です。その人は必ずもっと深く神を知り、神の力を体験するようになります。ですから私たちは日々、デボーションの時を持ち、聖霊の導きと助けを求めましょう。そして、どこにいても常に聖霊の導きを受けやすいよう御言葉を口ずさみ、心を整えておくようにしたいものです。聖霊と共に歩み続ければ、実が成ることが約束されているのですから。



【先週のメッセージより】 マタイ9:35~10:23

弟子達の派遣 / SEND ME

イエスは弟子達を派遣するにあたり、まず最初に弟子たちに悪霊達を制する権威を授けられました。なぜかと言えば、宣教は何よりも見えないところで働いている悪霊たちとの戦いだからです。今の時代、悪魔悪霊のことを話そうとすると「どこかおかしい人」という非難を受けますし、クリスチャン自身、半信半疑だったりします。これは小さい時から教えられて来ている合理的主義的世界観の影響に因るのです。しかし人がこの見えない世界を信じない分だけ、悪魔は自分を隠すことに成功しているのです。まして宣教は、この見えない世界に対するチャレンジであることを理解することなしには「空を打つ拳闘」になってしまい、効果も上がりません。私たちは皆、神の子としての立場を与えられ、悪霊どもを踏みつける権威をもって派遣されていることを覚えましょう。■